

令和5年度 大田区立矢口中学校 学校経営計画

校長 鈴木 孝洋

矢口中学校の教育目標

人間尊重の精神を教育の基調におき、人間性豊かで、民主的な社会を担うことのできる人間を育成するために、次の目標を定める。

気づき、考え、行動できる生徒を育てる。

○ 学ぶ人 ○ 思いやる人 ○ 鍛える人 ○ はばたく人

1 目指す学校像

「笑顔があふれ、毎日通いたいと思える学校」

- 信頼される学校
- 通いたい、通わせたい、勤務したい学校
- 生徒、保護者、地域が誇りとする学校

2 目指す生徒像

- 学ぶ人 ・ ・ ・ ・ 目的意識をもち、知識習得や技能習得に取り組める生徒
- 思いやる人 ・ ・ ・ ・ 自他を大切にし、互いに尊重し、高め合おうとする生徒
- 鍛える人 ・ ・ ・ ・ 命を大切にし、心身共に健康であろうとする生徒
- はばたく人 ・ ・ ・ ・ 正しい判断ができ、夢をもって、主体的に行動できる生徒

※1年生「見る学年」、2年生「見られる学年」、3年生「見せる学年」のスローガンの下、各学年での目的意識をもたせ、「魅せる学年」となって卒業する

3 目指す教師像

- 日々研鑽を積み、専門的な知識と実践的な指導力の向上に自ら努める教師
- 生徒に寄り添い、生徒の気持ちになって考えることのできる教師
- 学校経営に参画し、協働して教育活動を行う教師
- 心身ともに健康で、公私ともに充実した生活を送る教師

4 中期的目標（おおた教育ビジョン）と方策

（1）プラン1 未来社会を創造的に生きる生徒の育成

コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する生徒の力と自信を身につける。

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」につながる活動を含んだ授業の推進とともに国語教育・外国語教育・科学教育・数学教育の充実
- ・ ICT機器・タブレットを利用した授業の展開
- ・ 人権教育・国際理解教育の推進
- ・ 健康教育・食育の推進

(2) プラン2 学力の向上

生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め確かな学力の定着をさせる。

- ・大田区学習効果測定の実施と分析と授業改善プラン作成
- ・習熟度別少人数学習の実施
- ・学習指導講師等による補習教室
- ・教育研究推進校での実践的研究の活用

(3) プラン3 豊かな心の育成

生徒一人ひとりの健全な正義感や自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成する等、未来への希望に満ちた豊かな心を育む。

- ・「特別な教科道徳」を中心とした道徳教育の充実
- ・移動教室を通じた体験活動の実施
- ・集団活動など特別活動、社会体験活動の充実
- ・ボランティア活動の意義と推進
- ・幼保小中一貫した心の教育の充実

(4) プラン4 体力の向上と健康の増進

スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上等、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上を図る。

- ・体力調査結果の分析による体育の授業改善
- ・体育指導の充実
- ・体力向上プログラムによる体力向上
- ・基本的な生活習慣の確立

(5) プラン5 魅力ある教育環境づくり

生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくる。

- ・授業改善セミナーへの参加と活用
- ・いじめ防止対策の充実と保護者・地域への周知
- ・副校長アシスタント、部活動指導員、校外指導員、読書学習司書等の活用
- ・不登校対策の充実と未然防止
- ・トイレの洋式化

(6) プラン6 学校・家庭・地域が一体となってともにすすめる教育

学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、生徒を育てる仕組みをつくる。

- ・地域教育連絡協議会の発展（学校運営協議会設置の検討）
- ・学校地域支援本部（スクールサポート矢中）の発展・充実
- ・PTA活動と連携した家庭教育支援
- ・教育相談体制の充実
- ・地域行事への参加
- ・図書館のICT化の推進

4 今年度の重点（短期経営目標と方策）

○「目的を意識した教育活動」 ○「不登校生徒対策」 ○「生徒の主体的活動の重視」

スローガン

1年生「見る学年」・2年生「見られる学年」・3年生「見せる学年」

そして「魅せる学年」になって卒業しよう

- ◎ 「おおた教育ビジョン」にのっとった教育活動を展開していく。
- ◎ よき伝統は踏襲しながら、中学校三年間を見通した生徒の成長を促進する学校経営を展開する。
- ◎ 学校・保護者・地域が信頼関係のもと一体となって、「生徒のために」「生徒にどんな力をつけたいのか」「最も良いことは何か」を考え、目的意識をもって教育活動を展開する。
- ◎ 卒業期に胸を張って本校の卒業生であることを自他ともに誇りに思える生徒を育成する

(1) 今年度の重点目標と目標達成のための具体的方策

<教科>

- ① 新指導要領に基づく年間指導計画と評価基準による授業の実践
- ② 生徒が主体的・対話的に取り組み深い学びを得る授業（グループ学習等の充実）
- ③ 基礎・基本の定着とわかる授業の展開（教師の授業力向上）
- ④ 各学力調査の分析と授業改善推進プランの策定と実践
- ⑤ 補習授業やぐんぐん教室の必要な生徒が補習教室に参加する取り組み
- ⑥ ICT機器を活用した授業展開と一人一台のタブレットの活用
- ⑦ 数学・英語における東京ガイドラインや区の方針にそった習熟度別少人数授業の展開
- ⑧ 体育を中心とした小中連携での体力向上プログラムの実践と体力調査を分析した授業改善
- ⑨ 学力向上の取り組みとしてのコンテストの実施と各教科におけるコンテストの実施と分析（漢字、暗唱、計算、スペリング、都道府県県庁所在地、化学記号等）
- ⑩ 全教科を通じての家庭学習の定着と家庭への啓蒙

<道徳>

- ① 道徳教育推進教師を中心として年間指導計画に基づいた道徳教育の推進
- ② 教科としての道徳の実践と確実な評価
- ③ 人権教育、生命尊重教育の充実
- ④ 全教育活動を通じての自己肯定感の向上

<特別活動>

- ① 生徒の居場所づくり
- ② 集団活動を通じての豊かな人間関係の構築
- ③ Q U調査の分析と活用
- ④ 学校行事等を通じた生徒の主体的活動の場の提供
- ⑤ 学校行事や生徒会活動を通じた自己有用感、達成感の醸成
- ⑤ 地域活動への参加とボランティア活動の意義と推進

<総合的な学習の時間>

- ① 体験学習の充実
- ② 学び方や考え方を身につけ、課題解決や探究活動に主体的に取り組む態度の育成
- ③ 他文化共生・国際理解教育の充実
- ④ 特別支援学級との交流
- ⑤ 読書力向上のための一校一取組の実施

<生活指導>

- ① 基本的生活習慣の定着
- ② 攻めの生活指導…問題行動の未然防止のための指導（規範意識向上プログラムの活用）
- ③ いじめ・差別・暴力を許さない自他を尊重する態度の育成
- ④ 防犯・防災教育を含む安全指導の充実
- ⑤ スクールカウンセラー等の活用による不登校の未然防止と解消のための支援体制の確立
- ⑥ 不登校対策のための諸機関との連携強化、ケース会議の充実と保護者対応
- ⑦ 特別支援教育の充実
- ⑧ 学級指導や生徒会指導を通じての自治意識の向上
- ⑨ 連絡を密にして、共通理解のもと共通実践による生活指導

<進路指導>

- ① 3年間を見通した進路指導計画の確立と実践
- ② 進路指導計画のもとに一人一人が主体的に進路を選択できる能力の育成
- ③ キャリア教育を通じての生き方教育の推進
- ④ 情報の収集と共有
- ⑤ 情報活用のスキルの向上

(2) 地域・家庭との連携

- ① 地域・保護者が学校とともに生徒の健全育成を図る好ましい関係の構築
- ② 保護者が来校しやすい学校の雰囲気づくり
- ③ 各種通信の発行、ホームページの充実など学校情報の発信
- ④ P T A活動、地域行事に対する積極的な教職員・生徒のかかわり
- ⑤ 保護者等の学校生活アンケートの実施と活用
- ⑥ 地域に愛される学校づくり
- ⑦ スクールサポート矢中との連携
- ⑧ 学校と家庭の役割の確認と協力

(3) 服務規律の厳正

- ① 服務事故は絶対に起こさない。
- ② 教育公務員としてふさわしい言動、行動の徹底
- ③ 来校者、学校への問い合わせに対する丁寧、親切な対応（傾聴の姿勢・電話対応）
- ④ 適正な会計処理
- ⑤ 個人情報の管理の徹底

(4) 目指す学校像に対する成果指標

○信頼される学校

- ・家庭との連携・協力を密にし、信頼関係を築き、相談しやすい学校。
- ・生徒に寄り添った指導を行い、全校体制で組織的な生活指導・予防的な生活指導を展開する。
- ・いじめ防止対策委員会を充実させ、S Cを積極的に活用し、いじめ0を目指し、早期発見・早期解決に努める。
- ・不登校対策委員会を充実させ、S C・S S Wを積極的に活用し、児童相談所・警察・子ども家庭支援センター・医療機関との連携を密にし、初期対応を大切に、不登校生徒（欠席30日以上）出現率を6%以下にする。
- ・学校便りと学年便りを充実させ、情報発信を確実に行う。

○通いたい、通わせたい、勤務したい学校

- ・各教科で、生徒の活動や体験を重視した授業を展開し、分かる・できると実感できる授業を通して、学ぶ意欲を高める。
- ・各種学習コンテストを実施する等、基礎の定着を図り、達成感を経験させる。
- ・補習教室（ぐんぐん教室）を充実させ、遅進生徒等が意欲的に学ぶ機会を持たせる。必要な生徒が参加するための工夫とスクールサポートとの連携を行う。
- ・行事や生徒会活動、部活動を通して、自己有用感、達成感を得られる指導を行う。
- ・チャイム着席の定着と授業規律の徹底を行い、学ぶ環境を整える。
- ・各教室の整理整頓、美化活動や掲示教育を重視し、ごみのない学校として環境整備を推進する。
- ・学年だよりの保護者等の返信欄を通じて意見を収集し、たよりに掲載するとともに今後の教育活動に生かす。
- ・I C T機器を利用した授業の推進等、授業力向上のための研修へ参加できる学校。

- ・「ほう・れん・そう」を徹底し、一人に対応するのではなく、組織的な対応を行う。
- ・ライフ・ワーク・バランスを推進し、心身ともに健康に職務にあたる学校。

○生徒、保護者、地域が誇りとする学校

- ・積極的に挨拶や声掛けを行い、挨拶と笑顔のあふれる学校。
- ・生徒会活動や学級活動を活性化させ、生徒の手による学校での規律を徹底させながら、生徒の居場所づくりを推進し、生徒が成就感や達成感を味わえる学校。
- ・道徳授業や学校行事、地域ボランティアの体験から、他者を思いやる心を育て、内面の美しい生徒を育成する。
- ・防災拠点としての充実と地域ぐるみの防災訓練の実施に取り組む。
- ・地域の学校という意識をもち、地域行事に積極的に参加する学校。